

# 風水害備えあれば憂いなし

**近**

年、局地的に短時間で多量の雨が降る「集中豪雨」が増えています。本町でも、昨年7月の集中豪

雨により、土砂災害や床下浸水などの被害が出ました。また、九州には毎年多くの台風が接近、上陸し、大きな被害をもたらします。

私たちは、常に災害の危険と隣り合わせで生活しています。「今まで大丈夫だったから」という油断が、と

きとして命を奪うことにもなるかもしれません。

災害の発生を止めることはできませんが、事前に防災対策を行うことで、被害を軽減させることはできます。日ごろの防災対策が、いざというときに、あなたとあなたの家族を守ります。

## 風水害対策の基本は情報収集から

台風や豪雨は、襲来時期や規模がある程度予測することができます。日ごろから天気予報を気にかけて、注意が必要なときには、テレビやインターネットなどで最新の情報を収集するようにしましょう。

## 注意報と警報って？

注意報…何か災害の起こる恐れのあるときに発令されます。

警報…重大な災害の起こる恐れのあるときに発令されます。



▲ 昨年7月14日に発生した瀬戸の土砂崩れ

## 【風の強さと予想される被害】

平均風速（毎秒）	予報用語	予想される被害
10m 以上～ 15m 未満	やや強い風	傘がさせない。取り付けの不完全な看板やトタン板が飛び始める。
15m 以上～ 20m 未満	強い風	転倒する人も出る。ビニールハウスが壊れ始める。
20m 以上～ 25m 未満	非常に強い風	しっかり身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。
25m 以上～ 30m 未満		立ってられない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れ始める。
30m 以上～	猛烈な風	屋根が飛ばされたり、木造住宅の全壊が始まる。

## 【雨の強さと予想される被害】

1 時間の雨量	予報用語	予想される被害
10mm 以上～ 20mm 未満	やや強い雨	長く降り続く時は注意が必要。
20mm 以上～ 30mm 未満	強い雨	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模の崖崩れが始まる。
30mm 以上～ 50mm 未満	激しい雨	山崩れ・崖崩れが起こりやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要。
50mm 以上～ 80mm 未満	非常に激しい雨	マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。
80mm 以上～	猛烈な雨	大規模な災害の発生するおそれが高く、厳重な警戒が必要。